

平成24年度臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：口腔治療・歯周科

研究期間：平成24年4月1日～平成25年3月31日

研究課題名：歯の保存に対する Supportive periodontal therapy の効果

研究課題の概要及び成果：

歯周病菌で構成される細菌バイオフィーム（プラーク）により発症する歯周炎は再発リスクが非常に高い疾患である。そのため、メンテナンス期に移行した歯周炎患者に対して、歯周炎の再発防止を積極的に支援する supportive periodontal therapy (SPT) が不可欠である。しかしながら、SPT が歯周炎再発予防に効果的であることを客観的に示す科学的根拠は十分ではない。そこで、本学歯学部附属病院口腔治療・歯周科で SPT を 10 年以上受けている歯周炎患者 268 人の残存歯数を調査し、その推移を平成 17 年歯科疾患実態調査の結果と比較することにより、歯周炎患者の歯周組織の健康維持に対する SPT の効果を検討した。

その結果、当科にて 10 年以上 SPT を受けている患者は、SPT 開始時（平均年齢 50.8 歳）に平均 24.4 本の歯を有し、その後 10 年間の SPT 期間に年平均 0.22 本の歯を喪失したが、その喪失歯の割合は上記実態調査の同年齢層の人よりも少なかった。また、SPT 開始時の残存歯数が同実態調査で示された同年齢層の残存歯数より少なかった患者（105 人）でも、平均 16.7 年間の SPT 後には同調査における同年齢層の人よりも多数の歯を保有していた（図 1）。以上の結果から、SPT が歯周炎患者における歯の保存に有効であることが明らかとなった。

上記概要・成果に関連する図表等

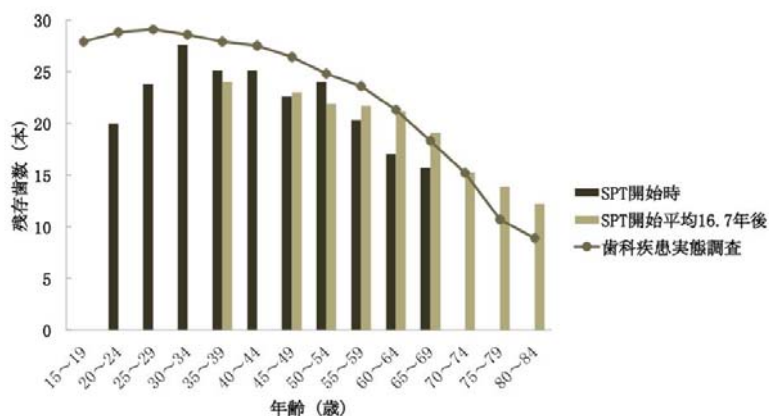


図 1 長期 SPT 患者の残存歯数の経時的推移と平成 17 年歯科疾患実態調査との比較